

# FUJITSU Desktop ESPRIMO

ESPRIMO Q558/GX

# 製品ガイド

(機種別編)

本書をお読みになる前に

**1** 各部名称

**2** 取り扱い

**3** 周辺機器

**4** お手入れ

**5** 仕様

# 目次

<b>本書をお読みになる前に</b> .....	<b>4</b>
安全にお使いいただくために .....	4
本書の表記 .....	4
Windowsの操作 .....	6
BIOSやドライバーのアップデートについて .....	7
商標および著作権について .....	7
<b>第1章 各部名称</b>	
1.1 パソコン本体前面 .....	9
1.2 パソコン本体背面 .....	10
1.3 キーボード .....	11
<b>第2章 取り扱い</b>	
2.1 マウス .....	14
2.1.1 注意事項 .....	14
2.1.2 マウスの基本設定を変更する .....	14
2.2 ディスプレイ .....	15
2.2.1 注意事項 .....	15
2.2.2 解像度を変更する .....	15
2.3 マルチディスプレイ機能 .....	16
2.3.1 マルチディスプレイ機能とは .....	16
2.3.2 注意事項 .....	17
2.3.3 マルチディスプレイ機能を設定する .....	17
2.4 サウンド .....	18
2.4.1 全体の再生音量を調節する .....	18
2.4.2 アプリごとの再生音量を調節する .....	18
2.4.3 機器や項目ごとの音量を調節する .....	18
2.4.4 オーディオ端子の機能を切り替える .....	20
2.4.5 既定のオーディオ機器を選択する .....	20
2.5 省電力 .....	21
2.5.1 省電力状態 .....	21
2.5.2 電源を切る .....	24
2.5.3 省電力設定 .....	25
2.6 通信 .....	27
2.6.1 有線LAN .....	27
2.6.2 無線LAN .....	28
2.6.3 Bluetoothワイヤレステクノロジー .....	28
2.6.4 無線通信機能の電波を発信する／停止する .....	29

## 第3章 周辺機器

3.1	周辺機器を取り付ける前に	31
3.1.1	注意事項	31
3.2	本体カバー	32
3.2.1	注意事項	32
3.2.2	本体カバーを取り外す	32
3.2.3	本体カバーを取り付ける	34
3.3	コネクタの接続／取り外し	35
3.3.1	注意事項	35
3.3.2	ディスプレイコネクタ	35
3.3.3	USBコネクタ	36
3.3.4	オーディオ端子	37
3.3.5	LANコネクタ	38

## 第4章 お手入れ

4.1	日常のお手入れ	40
4.1.1	パソコン本体、キーボード、マウスの表面の汚れ	40
4.2	定期的なお手入れ	41
4.2.1	注意事項	41
4.2.2	パソコン本体外部のほこりを取る	41

## 第5章 仕様

5.1	本体仕様	43
5.1.1	ESPRIMO Q558/GX	43
5.2	CPU	46
5.3	ディスプレイ	47
5.3.1	解像度	47
5.4	無線LAN	48

# 本書をお読みになる前に

## 安全にお使いいただくために



本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

## 本書の表記

本書の内容は2021年6月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

### ■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 <b>重要</b>	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>POINT</b>	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

### ■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】 + 【F3】キー、【Shift】 + 【↑】キーなど

### ■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリックし、「デバイス マネージャー」をクリックする操作

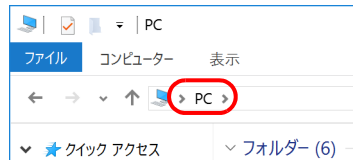
↓

「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイス マネージャー」の順にクリックします。

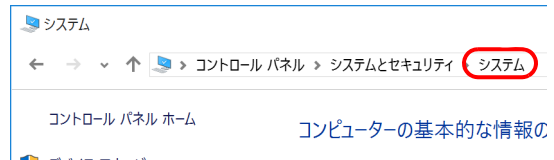
## ■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



「PC」ウィンドウ



「システム」ウィンドウ

## ■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

## ■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。  
必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。  
また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

## ■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。  
なお、本文内において書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

## ■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。


製品名称	本文中の表記	
Windows 10 Pro 64ビット版	Windows 10	Windows
Bluetooth®	Bluetooth	

## Windowsの操作

---

### ■ アクションセンター

アプリからの通知を表示する他、クリックすることで画面の明るさ設定や通信機能の状態などを設定できるアイコンが表示されます。

- 1 通知領域にある  をクリックします。  
画面右側に「アクションセンター」が表示されます。

### ■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。

- 1 「スタート」ボタン→「Windows システム ツール」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

### ■ Windowsのヒント

本書で説明されていないWindowsの機能については、次の操作で表示されるWindowsのヒントをご覧ください。

Windowsのヒントのご利用は、ネットワークに接続する必要があります。


- 1 「スタート」ボタン→「ヒント」をクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「ヒントを参照する」をクリックします。

### ■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

### ■ 通知領域のアイコン

通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。

表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の  をクリックします。

## BIOSやドライバーのアップデートについて

---

本パソコンには、さまざまなアプリや周辺機器の接続／制御に必要なBIOS、ドライバーなどが搭載されています。

これらのアプリ、BIOS、ドライバーに対して、アップデートプログラムが提供されることがあります。

アップデートプログラムには、次のような内容が含まれています。

- 機能の向上、追加
- 操作性の向上
- 品質改善

本パソコンをより快適にお使いいただくために、常に最新版のBIOSやドライバーを適用してください。

アップデート方法については、弊社アップデートサイト（[https://www.fmworld.net/biz/fmv/index\\_down.html](https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html)）をご覧ください。

### POINT

- ▶ 本パソコンには、インターネットを経由して、ドライバーやアプリの更新プログラムの有無を定期的にチェックして通知する「アップデートナビ」が搭載されています。  
『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」－「1.1.3 サポート関連のアプリ」をご覧ください。  
アップデートナビを有効にしてお使いください。

## 商標および著作権について

---

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Intel SpeedStepは、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、富士通株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2021

# 1

## 第1章

---

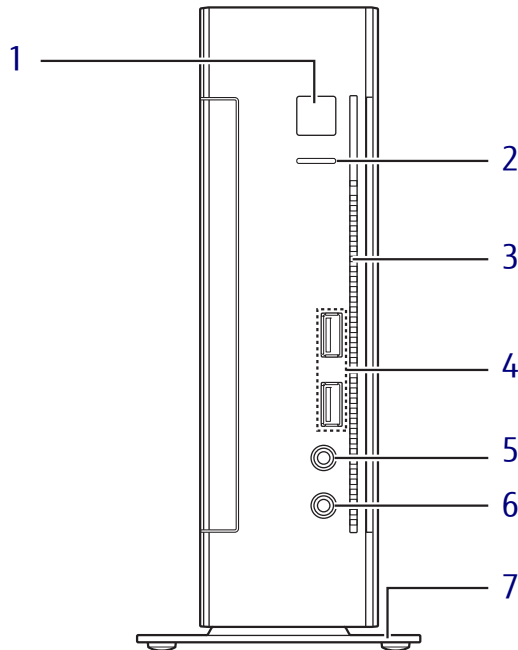
### 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1 パソコン本体前面 .....	9
1.2 パソコン本体背面 .....	10
1.3 キーボード .....	11



## 1.1 パソコン本体前面



### 1 電源ボタン／電源ランプ

パソコン本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.21）にしたりします。

電源を入れるときに電源ボタンを2秒押すことでBIOSセットアップを起動することができます。

また、本パソコンの状態を表示します。

LEDランプ	本パソコンの状態
点灯	動作状態
点滅	スリープ状態
消灯	電源オフまたは休止状態

#### POINT

- ▶ キーボードの左右2つの【Ctrl】キーを押すことで、電源を入れることができます。（→P.12）

### 2 ディスクアクセスランプ

内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

### 3 吸気孔

冷却用の空気を取り込むための穴です。

### 4 USB 3.0 Type-Aコネクタ

（→P.36）

### 5 ヘッドホン兼用ラインアウト端子

（→P.37）

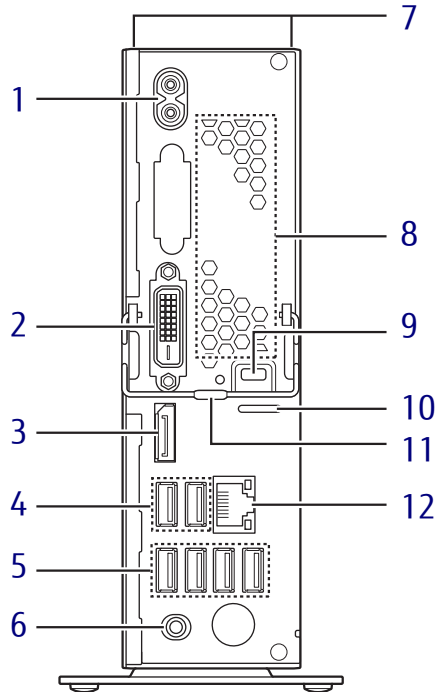
### 6 マイク兼用ラインイン端子

（→P.37）

### 7 フット

本パソコンを縦置きでお使いになるときに取付ける台座です。取り付け方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

## 1.2 パソコン本体背面



### 1 インレット

本パソコンに添付の電源ケーブルを接続します。

### 2 DVI-D コネクタ (→P.35)

### 3 DisplayPort コネクタ (→P.35)

### 4 USB 3.0 Type-A コネクタ (→P.36)

### 5 USB 2.0 Type-A コネクタ (→P.36)

### 6 ラインアウト端子 (→P.37)

### 7 吸気孔

冷却用の空気を取り込むための穴です。

### 8 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がします。

### 9 盗難防止用ロック取り付け穴 盗難防止用ケーブルを取り付けます。

### 10 セキュリティ施錠金具

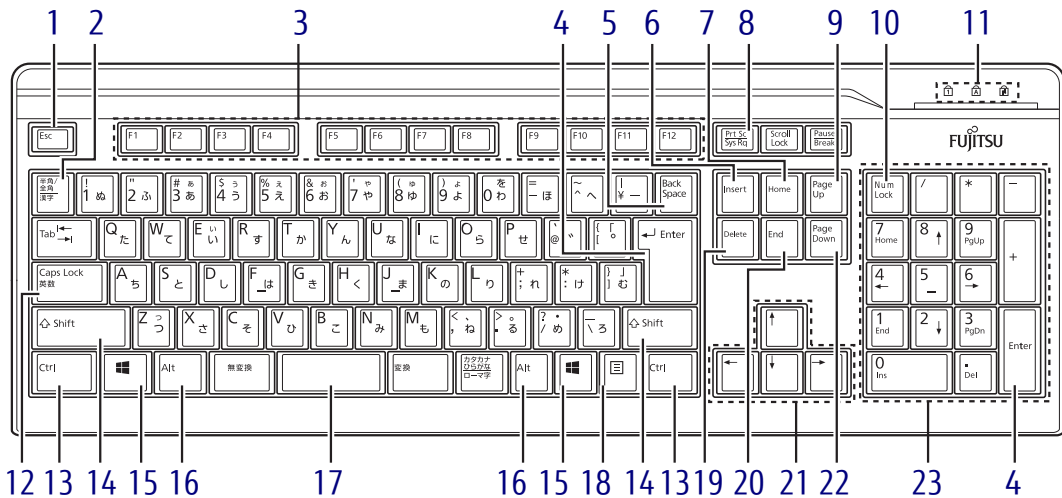
市販の鍵を取り付けます。セキュリティ施錠金具の穴径はφ6mmです。

### 11 ロック金具

本体カバーを固定 (ロック) します。

### 12 LAN コネクタ (→P.38)

## 1.3 キーボード



- 1 【Esc】 キー
- 2 【半角/全角】 キー  
日本語入力のオン/オフを切り替えます。
- 3 【F1】 ~ 【F12】 キー
- 4 【Enter】 キー
- 5 【Back Space】 キー
- 6 【Insert】 キー
- 7 【Home】 キー
- 8 【Print Screen】 キー
- 9 【Page Up】 キー
- 10 【Num Lock】 キー  
テンキーのモードを切り替えます。
- 11 インジケーター  
NumLock、Caps Lock、Scroll Lockの各機能のオン/オフを表示します。
- 12 【Caps Lock英数】 キー  
【Shift】 キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字/小文字の入力を切り替えます。
- 13 【Ctrl】 キー  
**POINT**  
▶ 2つの【Ctrl】 キーを押して電源を入れることができます。(→P.12)
- 14 【Shift】 キー
- 15 【】 (Windows) キー  
「スタート」メニューを表示します。
- 16 【Alt】 キー
- 17 【Space】 キー
- 18 【】 (アプリケーション) キー  
選択した項目のショートカットメニューを表示します。  
マウスの右クリックと同じ役割をします。
- 19 【Delete】 キー
- 20 【End】 キー
- 21 カーソルキー
- 22 【Page Down】 キー
- 23 テンキー  
「Num Lock」 インジケーター点灯時に数字が入力できます。  
「Num Lock」 インジケーター消灯時にキー下段に刻印された機能が有効になります。

## ■ 2つの【Ctrl】キーを押して電源を入れる

左右2つの【Ctrl】キー（→P.11）を同時に押すことで、パソコンの電源を入れることができます。この機能を使用する場合は、BIOSセットアップの「電源管理」メニューの次の項目を、表のとおり設定してください。

メニュー	設定項目	設定値
電源管理	電源管理設定	
	電源オフ時の電源供給	電源 ON
	ウェイクアップ設定	
	キーボード	専用キーのみ <sup>注</sup>

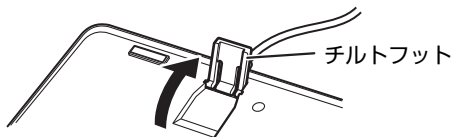
注：「使用する」に設定した場合は、キーボードの任意のキーを押して電源を入れることができます。

### POINT

- ▶ BIOSセットアップの操作については、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「BIOSセットアップの操作のしかた」をご覧ください。
- ▶ 本機能は標準添付キーボードで使用できます。

## ■ キーボードの角度調節

キーボードの底面には、チルトフットが2ヶ所付いています。チルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



# 2

## 第2章

---

### 取り扱い

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1	マウス .....	14
2.2	ディスプレイ .....	15
2.3	マルチディスプレイ機能 .....	16
2.4	サウンド .....	18
2.5	省電力 .....	21
2.6	通信 .....	27

## 2.1 マウス

**対象** マウス使用時


ここでは、マウスの基本設定について説明しています。

### 2.1.1 注意事項

- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
  - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
  - ・ 光沢のあるもの
  - ・ 濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
  - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

### 2.1.2 マウスの基本設定を変更する

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などは、「マウスのプロパティ」で変更できます。

- 1 「スタート」ボタン →  (設定) → 「デバイス」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「マウス」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連設定」の「その他のマウス オプション」をクリックします。「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 4 それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

## 2.2 ディスプレイ

ここでは、本パソコンに接続した1台のディスプレイを使う方法について説明しています。ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。ディスプレイを接続する方法については、「3.3.2 ディスプレイコネクタ」（→P.35）をご覧ください。


複数のディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.3 マルチディスプレイ機能」（→P.16）をご覧ください。

### 2.2.1 注意事項

- お使いのディスプレイと本パソコンの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

### 2.2.2 解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

- 1 「スタート」ボタン →  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をクリックします。
- 3 解像度を変更します。
  1. 画面右側の「ディスプレイの解像度」で設定したい解像度を選択します。
  2. 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。
- 4 リフレッシュレートを変更します。
  1. 画面右側の「ディスプレイの詳細設定」をクリックします。  
「ディスプレイの詳細設定」ウィンドウが表示されます。
  2. 「ディスプレイ1のアダプターのプロパティを表示します」をクリックします。
  3. 表示されたウィンドウで「モニター」タブをクリックします。
  4. 「画面のリフレッシュレート」を選択し「OK」をクリックします。

#### POINT

- ▶ 設定可能な値は、「5.3 ディスプレイ」（→P.47）をご覧ください。

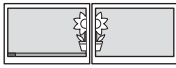
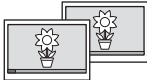
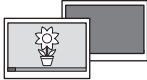
## 2.3 マルチディスプレイ機能

本パソコンに複数のディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。

ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.3.2 ディスプレイコネクタ」(→ P.35) をご覧ください。

### 2.3.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示 	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。 Windowsのタスクバーはすべてのディスプレイに表示されます。 それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示 	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示 	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

**【Win】 + 【P】** キーを押すことで、表示方法を選択する画面を表示できます。



## 2.3.2 注意事項


- お使いのディスプレイと本パソコンの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。表示可能な解像度を確認してください。
- 拡張デスクトップ表示では「WinDVD」の画面を2つのディスプレイの間で移動すると、一時的に再生が止まることがあります。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するアプリは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。
- 2台のディスプレイを接続している場合、POST画面やBIOSセットアップ画面の表示されるディスプレイは次のようになります。

表示される優先順位	1	2
表示されるディスプレイを接続しているコネクタ	DisplayPort 注	DVI-D

注：「DP→DVI変換ケーブル」および「DP→HDMI変換ケーブル」を使用してディスプレイを接続すると、優先順位が下がります。

- 解像度などを変更するときは一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

## 2.3.3 マルチディスプレイ機能を設定する

- 1 「スタート」ボタン →  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をクリックします。
- 3 画面右側の「マルチ ディスプレイ」で表示したい画面に設定します。
  - ・ 表示画面を複製する：クローン表示になります。
  - ・ 表示画面を拡張する：拡張デスクトップ表示になります。
  - ・ 1のみに表示する：シングル表示になります。パソコン本体のディスプレイのみに表示します。
  - ・ 2のみに表示する：シングル表示になります。外部ディスプレイのみに表示します。
- 4 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。
- 5 必要に応じて、表示する画面の位置、明るさ、解像度、向きを選択します。

### POINT

- ▶ 設定可能な値は、「5.3 ディスプレイ」(→P.47) をご覧ください。
- ▶ リフレッシュレートを変更する場合は、「2.2.2 解像度を変更する」(→P.15) の手順4を行ってください。

## 2.4 サウンド

---


ここでは、音量の調節方法やオーディオ端子の機能の切り替え方法などについて説明しています。

オーディオ端子に機器を接続する方法については、「3.3.4 オーディオ端子」（→P.37）をご覧ください。

### 2.4.1 全体の再生音量を調節する

---


本パソコンに接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

- 1 通知領域の「スピーカー」アイコン（) をクリックします。
- 2 スライダーで音量を調節します。

### 2.4.2 アプリごとの再生音量を調節する

---



アプリごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。


- 1 音量を調節するアプリを起動します。
- 2 通知領域の「スピーカー」アイコン（) を右クリックし、「音量ミキサーを開く」をクリックします。
- 3 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいアプリの音量を調節します。

### 2.4.3 機器や項目ごとの音量を調節する

---

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。

調節できる機器や項目は、「 再生するときに調節できる機器と項目」（→P.19）、「 録音するときに調節できる機器と項目」（→P.19）をご覧ください。

- 1 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。  
「3.3.4 オーディオ端子」（→P.37）
- 2 通知領域の「スピーカー」アイコン（) を右クリックし、「サウンドの設定を開く」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連設定」の「サウンド コントロールパネル」をクリックします。  
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 4 「再生」タブまたは「録音」タブをクリックします。

- 5 音量を調節したい機器を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 6 「レベル」タブをクリックします。
- 7 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をクリックします。

## ■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器／設定項目	説明
スピーカー	
Realtek HD Audio output	ヘッドホンおよびヘッドホン兼用ラインアウト端子から出力される音の再生音量
マイク	マイク兼用ラインイン端子（マイク入力設定時）から入力される音の再生音量
ライン入力	マイク兼用ラインイン端子（ライン入力設定時）から入力される音の再生音量
[ディスプレイ名] 注1注2	
インテル(R) ディスプレイ用オーディオ	ディスプレイから出力される音の再生音量

注1：「[ディスプレイ名]」には、接続されたディスプレイの名称が表示されます。

注2：次のコネクタに、音声出力に対応したディスプレイを接続した場合に表示されます。  
・ DisplayPort コネクタ

## ■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器／設定項目	説明
マイク	
マイク	マイク兼用ラインイン端子（マイク入力設定時）から入力される音の録音音量
マイクブースト	マイクブーストのレベル（マイク入力設定時）
ライン入力	
ライン入力	マイク兼用ラインイン端子（ライン入力設定時）から入力される音の録音音量

## 2.4.4 オーディオ端子の機能を切り替える

---


オーディオ端子（ヘッドホン兼用ラインアウト端子、マイク兼用ラインイン端子）の機能は、次の手順で切り替えます。

- 1 機能を切り替えたいオーディオ端子に機器を接続します（→P.37）。
- 2 「スタート」ボタン→「Realtek Audio Console」の順にクリックします。
- 3 画面左側のメニューで「デバイス詳細設定」をクリックします。
- 4 画面右側の「コネクタを再接続しています」の下に表示されているコネクタで、使用したいデバイスを選択します。

## 2.4.5 既定のオーディオ機器を選択する

---

音声を録音または再生する機器が複数使用可能な場合、既定の機器を選択できます。

- 1 通知領域の「スピーカー」アイコン（）を右クリックし、「サウンドの設定を開く」をクリックします。
- 2 画面右側の「関連設定」の「サウンドコントロールパネル」をクリックします。「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 3 「再生」タブまたは「録音」タブをクリックします。
- 4 既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。
- 5 「OK」をクリックします。

## 2.5 省電力

ここでは、パソコンを使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

### 2.5.1 省電力状態

パソコンを使用しないときに、画面を消灯して消費電力を抑えます。

省電力状態	説明	消費電力
スリープ	メモリに作業中のデータなどを保存し、Windowsの動作を一時的に中断します。 パソコンの電源が入っているため、電力を少しずつ消費しますが、比較的早くレジュームできます。	少ない
ハイブリッドスリープ	作業中のデータをメモリとフラッシュメモリディスクの両方に保存します。 そのため、パソコンの電源が入っているときはスリープ状態のように素早くレジュームでき、電源が切れた場合でも元の状態でレジュームできます。  ※ハイブリッドスリープを「有効」にしている場合は、休止状態は使用できません。 ハイブリッドスリープの設定を変更するには、 <b>「ハイブリッドスリープの設定を変更する」</b> (→P.85)をご覧ください。	少ない
休止状態 <sup>注</sup>	フラッシュメモリディスクに作業中のデータなどを保存し、電源を切ります。 ただし、作業中のデータなどを保存しているため、パソコンの起動後に作業を再開できます。 レジュームはスリープよりも少し時間がかかります。	最も少ない



注 : 休止状態を「有効」にする場合は設定が必要です。

#### ■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。  
その場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態ですら一定時間経過すると、再度スリープ状態になります。

## ■ 省電力状態にする

ご購入時は次のように設定されています。

パソコンの動作	操作／条件
スリープに移行	「スタート」ボタン→  （電源）の順にクリックし、「スリープ」を選択する 一定時間操作しない 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.26）
休止状態に移行	「スタート」ボタン→  （電源）の順にクリックし、「休止状態」を選択する 一定時間操作しない 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.26）

## ■ 省電力状態からレジュームする

ご購入時は次のように設定されています。

パソコンの動作	代表的な操作／条件
スリープからレジュームする	電源ボタンを押す キーボードやマウスを操作する Wake on LAN (WoL) 機能 <sup>注1</sup> 「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.22） 『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「Wake on LANを有効にする」をご覧ください。
休止状態からレジュームする	電源ボタンを押す Wake on LAN (WoL) 機能 <sup>注1</sup> 「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」（→P.22） 『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「Wake on LANを有効にする」をご覧ください。

注1 ご購入時は「無効」に設定されています。

## ■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する

WoL機能は、他のコンピューターから有線LAN経由で本パソコンを起動・レジュームする機能です。本パソコンが次の状態のときに、起動・レジュームすることができます。

- スリープ状態からレジュームする
- 休止状態からレジュームする
- 電源オフ状態から起動する

ここでは、スリープ状態および休止状態からレジュームする設定について説明します。

電源オフ状態からの起動については、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「Wake on LANを有効にする」をご覧ください。

- 1 管理者アカウントでサインインします。
- 2 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.6）を表示します。
- 3 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
- 4 画面左側のメニューで「デバイス マネージャー」をクリックします。  
「デバイス マネージャー」が表示されます。

- 5 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
- 6 次のデバイスをダブルクリックします。  
Realtek PCIe GbE Family Controller
- 7 「電源の管理」タブをクリックします。
- 8 WoL機能を有効にするには次の項目にチェックを付け、無効にするにはチェックを外します。
  - ・電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
  - ・このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする


 **POINT**

- ▶ マジックパケットを受信したときのみ省電力状態からレジュームさせるようにするには、「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にもチェックを付けます。

- 9 「OK」をクリックします。

休止状態からのレジューム設定には、BIOSセットアップの設定も必要になります。  
設定方法は、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」－「Wake on LANを有効にする」をご覧ください。

## ■ ハイブリッドスリープの設定を変更する

- 1 「スタート」ボタン → （設定） → 「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連設定」の「電源の追加設定」をクリックします。  
「電源オプション」が表示されます。
- 4 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
- 5 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 6 「スリープ」をダブルクリックし、「ハイブリッドスリープを許可する」をダブルクリックします。
- 7 設定を変更し、「OK」をクリックします。

## 2.5.2 電源を切る

ここでは、Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る方法を説明します。

### ■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切る前に、あらかじめディスクを取り出してください（→P.33）。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れしないでください。必ず30秒以上たってから電源を入れるようにしてください。
- 長期間使用しない場合、または電源を完全に切断する場合は、パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

### ■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、パソコン本体の電源を切ります。

#### □ Windowsを終了する

- 1 「スタート」ボタン→ （電源）の順にクリックします。
- 2 「シャットダウン」をクリックします。

#### POINT


- ▶ 電源ボタンを押してもWindowsを終了できません。
  1. 電源ボタン（→P.9）を押します。

ご購入時の設定では、しばらくするとWindowsが終了し、パソコン本体の電源が自動的に切れます。
  - 電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、Windowsが正常終了せずにパソコン本体の電源が切れてしまいます。
  - 電源ボタンを押したときの動作を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.26）をご覧ください。

#### □ 完全に電源を切る

#### 重要

- ▶ 次のような場合は、ここで説明している手順でパソコンの電源を切ってください。
  - ・ BIOS セットアップを起動する
  - ・ 診断プログラムを使用する
  - ・ メモリを交換する／増設する
  - ・ フラッシュメモリディスクデータ消去

- 1 「スタート」ボタン→ （設定）→「更新とセキュリティ」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「回復」をクリックします。
- 3 画面右側のメニューで「今すぐ再起動」をクリックします。
- 4 「PCの電源を切る」をクリックします。




## 2.5.3 省電力設定

---

使用状況にあわせて電源プランを切り替えたり設定を変更することで、消費電力を抑えることができます。


### ■ 電源プランを切り替える

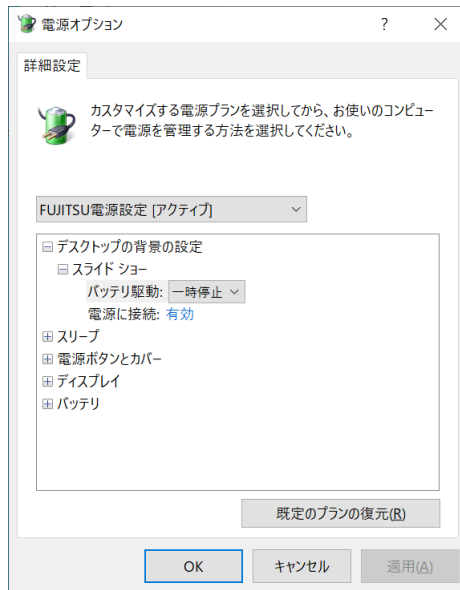
- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連設定」の「電源の追加設定」をクリックします。  
「電源オプション」が表示されます。
- 4 お使いになる電源プランをクリックします。

### □ 新規に電源プランを作成する場合

- 1 「電源オプション」ウィンドウ左のメニューで「電源プランの作成」をクリックします。  
「電源プランの作成」ウィンドウが表示されたら、メッセージに従って操作します。

## ■ 電源プランの設定を変更する

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連設定」の「電源の追加設定」をクリックします。  
「電源オプション」が表示されます。
- 4 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
- 5 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。



- 6 リストから項目を選択し、設定を変更します。

### POINT

- ▶ 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

- 7 「OK」をクリックします。

## 2.6 通信

ここでは本パソコンの通信機能について説明しています。

ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「5.1 本体仕様」（→P.43）をご覧ください。

### POINT

- ▶ 本パソコンには、ネットワーク環境を簡単に切り替えられるユーティリティ「Plugfree NETWORK」が添付されています。  
『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」－「1.2.1 「ドライバズディスク検索」からのインストール」をご覧ください。また、「Plugfree NETWORK」をインストールしてください。  
また、「Plugfree NETWORK」の詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。  
1. 「スタート」ボタン→「Plugfree NETWORK」→「ネットワーク診断」の順にクリックします。

### 2.6.1 有線LAN

LANケーブルを接続する方法については、「3.3.5 LANコネクタ」（→P.38）をご覧ください。  
LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

#### ■ 注意事項

- Link速度を100/10Mbpsに固定して接続する場合、オートネゴシエーションのみサポートしているネットワーク機器では、「デュプレックス」の設定は「半二重／Half Duplex」に設定してください。「全二重／Full Duplex」に設定すると、次のような問題が発生する場合があります。
  - ・ Linkランプが点灯しない
  - ・ 通信できない
  - ・ 通信速度が異常に遅い

## 2.6.2 無線LAN

---

無線LANについては、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。  
無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。  
また、無線LANの仕様については、「5.4 無線LAN」（→P.48）をご覧ください。

### ■ 無線LANの種類を確認する

搭載されている無線LANの種類を確認するには、次の操作を行います。

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.6）を表示します。
- 2 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
- 3 画面左側のメニューで「デバイス マネージャー」をクリックします。  
「デバイス マネージャー」が表示されます。
- 4 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。  
本パソコンに搭載されている無線LANの種類が表示されます。

## 2.6.3 Bluetoothワイヤレステクノロジー

---


Bluetoothワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやワイヤレスキーボード、携帯電話などの周辺機器や他のBluetoothワイヤレステクノロジー搭載のパソコンなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

Bluetoothワイヤレステクノロジーについては、『Bluetoothワイヤレステクノロジーご利用ガイド』をご覧ください。

また、Bluetoothワイヤレステクノロジーのバージョンについては、「5.1 本体仕様」（→P.43）をご覧ください。

## 2.6.4 無線通信機能の電波を発信する／停止する

電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。  
電波の発信／停止は次の方法で変更できます。

- 1 「スタート」ボタン→（設定）→「ネットワークとインターネット」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「機内モード」をクリックします。

### POINT

- ▶ 機内モード
  - ・機内モードとは、パソコンに搭載されている無線通信機能の電波を停止する機能です。
  - 機内モードを「オン」にすると電波が停止します。

- 3 画面右側の「機内モード」または「ワイヤレスデバイス」でそれぞれの設定を切り替えます。


「機内モード」では無線通信の電波をまとめて発信／停止します。特定の電波の発信／停止を設定する場合は「ワイヤレスデバイス」で設定します。

	機内モード	ワイヤレスデバイス
「オン」に設定	すべての無線通信機能を停止	電波を発信
「オフ」に設定	すべての無線通信機能を発信	電波を停止

### 重要

- ▶ 電波を「停止」に切り替えた場合、すべての無線デバイスが「停止」になりますが、「発信」に切り替えた場合は、電波を「停止」する直前に「発信」の状態だったデバイスのみが「発信」となります。

### POINT

- ▶ Bluetoothワイヤレステクノロジーは、次の操作でも設定を切り替えることができます。
  1. 「スタート」ボタン→（設定）→「デバイス」の順にクリックします。
  2. 画面左側のメニューで「Bluetoothとその他のデバイス」をクリックします。
  3. 画面右側のメニューでBluetoothの設定を切り替えます。
    - ・「オン」：電波を発信する
    - ・「オフ」：電波を停止する

# 3

## 第3章

---

### 周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に .....	31
3.2 本体カバー .....	32
3.3 コネクタの接続／取り外し .....	35

## 3.1 周辺機器を取り付ける前に

---

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

### 3.1.1 注意事項

---

- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。電源を切り、電源ケーブルを抜いた後、十分に待ってから作業を始めてください。  
やけどの原因となります。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付け後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われなくなることがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れ、パソコン本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

## 3.2 本体カバー

パソコン本体内部に周辺機器を取り付けたり取り外したりする場合には、本体カバーを取り外す必要があります。ここでは本体カバーの取り付け／取り外し方法について説明しています。

必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.31）をお読みになってから作業をしてください。

### 3.2.1 注意事項

- 本体カバーを取り外す、または取り付けるときは、必ずパソコン本体の電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。電源の切り方については、「2.5.2 電源を切る」（→P.24）をご覧ください。  
また、本体カバーを取り外した状態では、電源ケーブルをパソコン本体に接続しないでください。
- 作業はパソコン本体が滑らないような平らな台の上で行ってください。
- 本体カバーを取り外す、または取り付けるときは、指をはさんだり、つめを傷付けたりしないように注意してください。

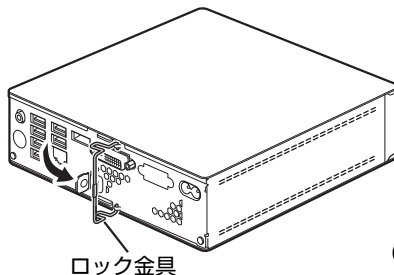
### 3.2.2 本体カバーを取り外す

- 1 パソコン本体および接続されている周辺機器の電源を切り、電源ケーブルを抜きます。
- 2 フット（→P.9）を取り付けている場合は、フットを取り外します。
- 3 パソコン本体を横置きにします。

#### 重要

- ▶ 電源ボタン側の本体カバーを取り外します。  
イラストのようにパソコン本体を横に倒してください。

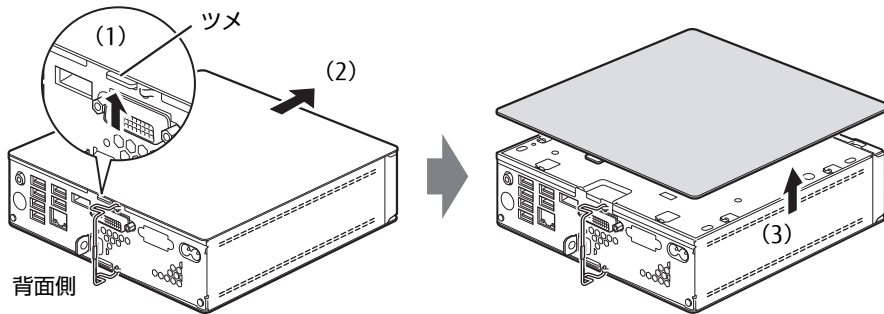
- 4 パソコン本体背面のロック金具を矢印の向きに動かし、ロックを外します。



（イラストは機種や状況により異なります）

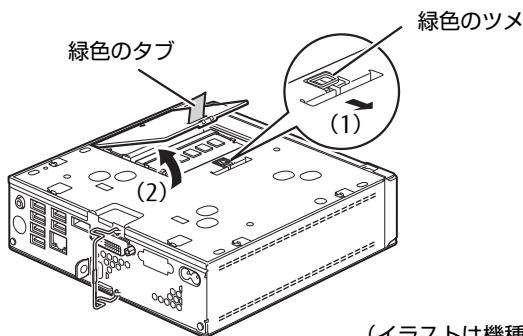


- 5** (1) パソコン本体背面のツメを上押ししながら、(2) 本体カバーをパソコン本体前面側に (5mm程度) スライドさせ、(3) そのまま本体カバーを上を持ち上げます。



(イラストは機種や状況により異なります)

- 6** メモリカバーを取り外します。
1. メモリカバーの横にある緑色のツメを、矢印の方向に押します。
  2. そのまま緑色のタブを引っ張りながらメモリカバーを開きます。



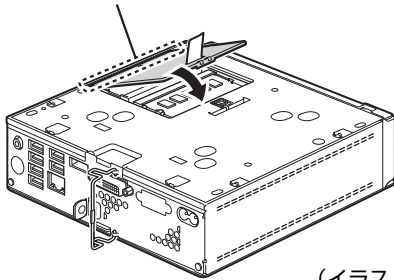
(イラストは機種や状況により異なります)

**重要**

- ▶ メモリカバーを取り外すときに、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。けがの原因となります。

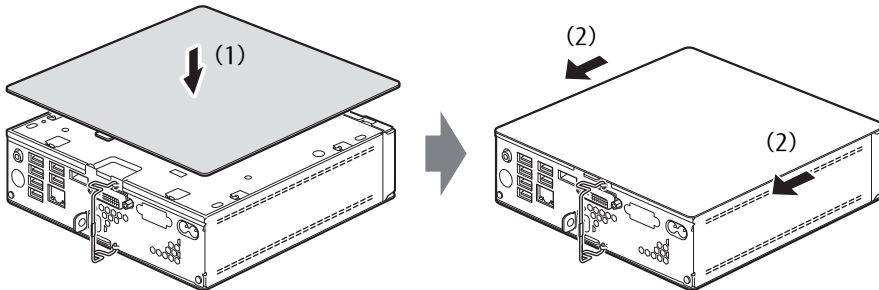
### 3.2.3 本体カバーを取り付ける

- 1 メモリカバーの点線部をパソコン本体に差し込み、メモリカバーを閉じます。  
この部分を先に差し込む



(イラストは機種や状況により異なります)

- 2 (1) 本体カバーをまっすぐに下ろし、(2) 本体背面側にスライドさせます。



(イラストは機種や状況により異なります)

- 3 ロック金具を倒し、ロックします。

## 3.3 コネクタの接続／取り外し

ここでは、周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。

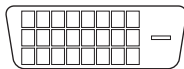
接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「5.1 本体仕様」(→P.43)をご覧ください。

必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.31)をお読みになってから作業をしてください。

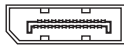
### 3.3.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかつたり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前に確認してください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずパソコン本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

### 3.3.2 ディスプレイコネクタ



DVI-Dコネクタ



DisplayPortコネクタ

ディスプレイを接続します。パソコン本体の電源を切ってから接続してください。

#### ■ 接続する

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
- 2 ディスプレイコネクタに、ディスプレイのケーブルを接続します。  
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。  
次のコネクタをお使いの場合、コネクタのネジを締めてください。  
・ DVI-D コネクタ
- 3 ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。

## ■ 取り外す

### 重要

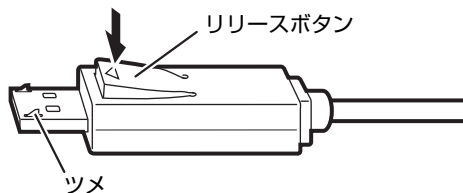
- ▶ マルチディスプレイ機能 (→P.16) をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

#### □ DVI-D コネクタ

- 1 パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。  
コネクタのネジを緩めてからケーブルを引き抜いてください。

#### □ DisplayPort コネクタ

- 1 パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのリリースボタンを押しながら、まっすぐに引き抜きます。  
リリースボタンを押すことでツメが引っ込み、パソコン本体から外れます。

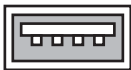


## 3.3.3 USB コネクタ

---



USB 3.0 Type-A コネクタ (青色)



USB 2.0 Type-A コネクタ (黒色)

USB 対応周辺機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。


## ■ 接続する

- 1 USB コネクタに、USB 対応周辺機器のケーブルを接続します。  
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

## ■ 取り外す

### 重要

- ▶ USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- 1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。
  1. 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン (  ) をクリックします。
  2. 取り外すデバイスをクリックし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

## 3.3.4 オーディオ端子

---

オーディオ機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

### 重要

- ▶ マイク兼用ラインイン端子やヘッドホン兼用ラインアウト端子にオーディオ機器を接続したり取り外したりするときは、オーディオ機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

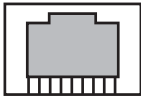
## ■ 接続する

- 1 ヘッドホン兼用ラインアウト端子またはマイク兼用ラインイン端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。  
まっすぐに差し込んでください。

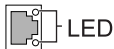
## ■ 取り外す

- 1 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

### 3.3.5 LANコネクタ



LANケーブルを接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。LEDの意味は、次のとおりです。



	上部LED (Link/Act)	下部LED (Speed)
1000MbpsでLinkを確立	緑色点灯 <sup>注</sup>	オレンジ点灯
100MbpsでLinkを確立	緑色点灯 <sup>注</sup>	緑色点灯
10MbpsでLinkを確立	緑色点灯 <sup>注</sup>	消灯

注：データ転送中は緑色点滅



- ▶ 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリ5 (カテゴリ5E) 以上のLANケーブルを使用してください。

#### ■ 接続する

- 1 LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。  
コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

#### ■ 取り外す

- 1 コネクタのツメを押さえながら、LANケーブルをまっすぐに引き抜きます。

# 4

## 第4章

---

### お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

4.1 日常のお手入れ .....	40
4.2 定期的なお手入れ .....	41

## 4.1 日常のお手入れ

---

パソコン本体や周辺機器を長時間使用していると、汚れが付いたり、ほこりがたまっていきます。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

### 4.1.1 パソコン本体、キーボード、マウスの表面の汚れ

---

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

#### 重要

- ▶ 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

#### ■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

#### 重要

- ▶ ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- ▶ 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- ▶ 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。



## 4.2 定期的なお手入れ

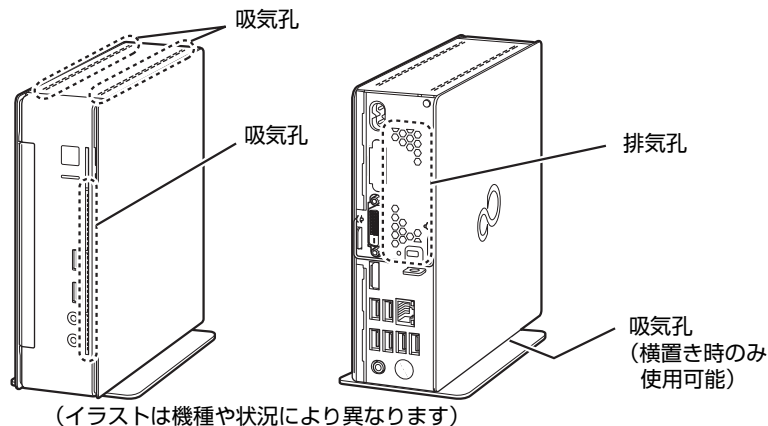
長期間パソコンを使用していると、通風孔やパソコン内部にほこりがたまります。ほこりがたまった状態で使用し続けると、故障の原因となりますので、定期的なお手入れをしてください。

### 4.2.1 注意事項

- お手入れをする場合は、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。  
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。  
電源の切り方については、「2.5.2 電源を切る」(→P.24)をご覧ください。
- 清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、十分に換気してください。
- 洗剤を使用しないでください。故障の原因となります。
- 清掃時に破損した場合は、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分にご注意ください。
- パソコン本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れたり金属質のものに掃除機の吸引口先端を触れさせたりして、静電気を放電してください。  
パソコン本体内部は静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、掃除機の吸引口や人体にたまった静電気によって破壊される場合があります。

### 4.2.2 パソコン本体外部のほこりを取る

パソコン本体の通風孔(吸気や排気)などの開孔部にほこりがたまると、故障の原因となります。通風孔などに付着したほこりは、掃除機で吸い取ってください。



# 5

## 第5章 仕様

---


本製品の仕様を記載しています。

5.1 本体仕様 .....	43
5.2 CPU .....	46
5.3 ディスプレイ .....	47
5.4 無線LAN .....	48

## 5.1 本体仕様

### 5.1.1 ESPRIMO Q558/GX

ESPRIMO Q558/GX		
対応CPU		インテル® Core™ i5-9500T プロセッサ
CPU注1	動作周波数	2.20GHz
		最大注2 3.70GHz
	コア数/スレッド数	6/6
	キャッシュメモリ（3次）	9MB
チップセット		インテル® H310
システムバス/メモリバス		5GT/s DMI注3/2666MHz
メインメモリ		標準8GB（8GB×1）/最大16GB（DDR4 SDRAM SO-DIMM）
メモリスロット		×2（空きメモリスロット×1）
表示機能		
グラフィックスアクセラレータ		Intel® UHD Graphics 630（CPUに内蔵）
ビデオメモリ		メインメモリと共用
解像度/発色数	DisplayPort	最大3840×2160ドット/最大1677万色
	DVI-D	最大1920×1200ドット/最大1677万色
DirectX		12.0
OpenGL		4.5
ストレージ注4		フラッシュメモリディスク256GB（NVMe）
オーディオ機能		
オーディオコントローラー		チップセット内蔵+ High Definition Audio コーデック
PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）注5 サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）注5 同時録音再生機能
MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート
キーボード		USB日本語キーボード（109Aキー）
マウス		USBマウス（光学式）
通信機能		
LAN		1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T準拠注6、Wake on LAN対応注7
無線LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、 IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 （5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）
	内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式注8
Bluetoothワイヤレステクノロジー注9		Bluetooth V5.0準拠
セキュリティ機能		
セキュリティチップ（TPM）		なし注10
盗難防止用ロック取り付け穴		あり
セキュリティ施錠金具		穴径：φ6mm

ESPRIMO Q558/GX		
対応CPU	インテル® Core™ i5-9500T プロセッサ	
インターフェース		
外部ディスプレイ	DisplayPort <sup>注11</sup>	20ピン×1
	DVI-D <sup>注11</sup>	24ピン×1
USB <sup>注12注13</sup>		
Type-A	USB 2.0	×4（背面）
	USB 3.0	×4（前面×2、背面×2）
LAN		RJ-45×1
オーディオ	マイク	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1（前面）
	ヘッドホン	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1（前面）
	ラインアウト	φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1（背面）
自己診断（POST）時		あり <sup>注14</sup>
ストレージベイ	2.5インチベイ	内部×1（空きベイ×0）
電源／周波数		AC100V±10%、50/60Hz +2% -4%（入力波形は正弦波のみサポート）
消費電力		
電源オフ時 <sup>注15</sup>		約0.2W
動作時 <sup>注16</sup> （通常時／最大時 <sup>注17</sup> ／スリープ時）		約8.5W／約69W／約0.6W
最大消費電力		約150W
定格電流	動作時	最大1.5A
外形寸法 （突起部含まず）	縦置き	W 55×D 191×H 186mm W 85×D 191×H 193mm（フット装着時）
	横置き	W 186×D 191×H 55mm
質量		約1.8kg
電波障害対策		VCCIクラスB
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 <sup>注18</sup> （2022年度基準）		15区分 33.7kWh／年（A） 
温湿度条件		温度10～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度-10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）
プレインストールOS <sup>注19</sup>		Windows 10 Pro（64ビット版）
サポートOS <sup>注19注20</sup>		Windows 10 Enterprise LTSC 2019（64ビット版）、 Windows 10 Enterprise（64ビット版）、 Windows 10 Pro（64ビット版）

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- 注1 : ・ アプリによっては、CPU名表記が異なる場合があります。  
・ 本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「5.2 CPU」(→P.46)をご覧ください。
- 注2 : インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0 (→P.46) 動作時。
- 注3 : DMIはDirect Media Interfaceの略です。
- 注4 : 容量は、1GB=1000<sup>3</sup>バイト換算値です。
- 注5 : 使用できるサンプリングレートは、アプリによって異なります。
- 注6 : ・ 1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。  
・ 1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。  
また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリー 5 (カテゴリー 5E) 以上のLANケーブルを使用してください。
- 注7 : ・ 1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wake on LAN機能はご使用になれません。  
・ Wake on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定 (オートネゴシエーション) にしてください。  
- 本パソコンの有線LANインターフェース  
- 本パソコンの有線LANインターフェースと接続するハブのポート  
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本パソコンが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWake on LAN機能が動作しない場合があります。  
・ スリープ状態からのWake on LAN機能を使用するには、「 WoL機能によるレジュームの設定を変更する」(→P.22) をご覧ください。  
・ 休止状態および電源オフ状態からのWake on LAN機能を使用するには、『製品ガイド (共通編)』の「2章 BIOS」—「Wake on LANを有効にする」をご覧ください。
- 注8 : IEEE 802.11n準拠またはIEEE 802.11ac準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
- 注9 : すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注10 : チップセット内蔵のセキュリティ機能 (Intel® PTT) を使用することができます。
- 注11 : HDCPに対応しています。著作権保護された映像を再生する場合は、HDCP対応のデジタルディスプレイをお使いください。
- 注12 : ・ すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。  
・ 長いUSBケーブルを使用してUSBデバイスを接続した場合、USBデバイスが正常に動作しないことがあります。  
この場合は、USB準拠の短いケーブルをお試しください。
- 注13 : 外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は次のとおりです。  
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。  
・ USB 2.0は、1ポートにつき500mA  
・ USB 3.0は、1ポートにつき900mA
- 注14 : 起動時の自己診断 (POST) で異常が見つかった場合に表示されるメッセージは、『製品ガイド (共通編)』の「3章 トラブルシューティング」—「 起動時に表示されるエラーメッセージ」をご覧ください。
- 注15 : 消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 注16 : ・ ご使用になる機器構成により値は変動します。  
・ 標準構成でOSを起動させた状態での本体のみの測定値です。
- 注17 : ・ 本パソコンで選択可能な最大構成で測定しています。  
・ 測定プログラムは当社独自の高負荷テストプログラムを使用しています。
- 注18 : エネルギー消費効率とは、JIS C62623 (2014) に規定する方法により測定した年間消費電力量です。カッコ内の数値は省エネルギー基準達成率を示します。ただし、達成率が100%を超えるものは、次のようにアルファベットによる表示語で表記しています。  
A : 100%以上110%未満、AA : 110%以上140%未満、AAA : 140%以上
- 注19 : 日本語版。
- 注20 : ・ 富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。  
・ サポートOSに関する最新の情報については、富士通製品情報ページ内にある「OS関連情報」(<https://www.fmworld.net/biz/fmw/support/os/>) をご覧ください。  
・ Windowsを新規にインストールする場合は、『製品ガイド (共通編)』の「付録2 Windowsの新規インストールについて」をご覧ください。

## 5.2 CPU

本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

### ■ インテル®ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0

インテル®ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0は、従来のマルチコアの使用状況にあわせてCPUが処理能力を自動的に向上させる機能に加え、高負荷時にパフォーマンスを引き上げるように最適化された機能です。

#### POINT

- ▶ OSおよびアプリの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

### ■ インテル®バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル®バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

### ■ 拡張版Intel SpeedStep®テクノロジー（EIST）

拡張版Intel SpeedStep®テクノロジーは、実行中のアプリのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。

#### POINT

- ▶ この機能により本パソコンの性能が低下することがあります。

### ■ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用すること（バッファオーバーフロー脆弱性）を防ぎます。

データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「[アプリ名称] は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をクリックし、表示される対処方法に従ってください。

## 5.3 ディスプレイ

### 5.3.1 解像度

本パソコンが出力可能な解像度です。  
お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。

#### POINT

- ▶ お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。表示可能な解像度を確認してください。発色数は「32ビット」（約1677万色）です。
- ▶ お使いのOSやディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

解像度	リフレッシュレート (Hz)
1024×768	60
1280×1024	60
1360×768	60
1440×900	60
1600×900	60
1600×1200	60
1680×1050	60
1920×1080	60
1920×1200 <sup>注1</sup>	60
1920×1440 <sup>注2</sup>	60
2560×1440 <sup>注2</sup>	60
2560×1600 <sup>注2</sup>	60
3840×2160 <sup>注2</sup>	60

- 注1 : DVI-D出力の最大サポート解像度は1920×1200ドット、60Hz（CVT RB : Coordinated Video Timings Reduced Blanking）です。  
お使いのディスプレイがDVI-D入力での1920×1200ドット表示をCVT RBで対応していれば選択・表示できますが、CVT RBではなく、Standard Timingsで対応している場合には選択できず、1920×1080、1680×1050などの解像度が選択可能な解像度になります。  
お使いのディスプレイのDVI-D入力の仕様については、ディスプレイメーカーに確認してください。
- 注2 : DisplayPortコネクタを使用する場合に表示可能。

## 5.4 無線LAN

本パソコンに搭載されている無線LANの仕様は次のとおりです。

### ■ Intel(R) Wireless-AC 9260

項目	仕様	
無線LAN規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠 (5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56)	
転送レート	IEEE 802.11b準拠	11～1Mbps (自動切り替え)
	IEEE 802.11a準拠 IEEE 802.11g準拠	54～6Mbps (自動切り替え)
	IEEE 802.11n準拠	300～6Mbps (自動切り替え、HT20/40対応) 注2
	IEEE 802.11ac準拠	1733～6Mbps (自動切り替え、VHT20/40/80/160対応) 注3
セキュリティ注4	SSID (ネットワーク名) WEP (セキュリティキー (WEPキー) : 64 / 128ビット) 注5 WPA-パーソナル (WPA-PSK) (TKIP/AES) WPA2-パーソナル (WPA2-PSK) (TKIP/AES) WPA-エンタープライズ (WPA) (EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)) (TKIP/AES) WPA2-エンタープライズ (WPA2) (EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)) (TKIP/AES) WPA3-パーソナル (WPA3-SAE) (AES) IEEE 802.1X (EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2))	
使用周波数範囲	2,400MHz～2,483.5MHz 5,150MHz～5,340MHz 5,460MHz～5,760MHz	
チャンネル数注6	IEEE 802.11b準拠 IEEE 802.11g準拠	1～13ch
	IEEE 802.11a準拠	W52 (36/40/44/48ch) / W53 (52/56/60/64ch) / W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch)
	IEEE 802.11n準拠	・ 2.4GHzモード 1～13ch ・ 5GHzモード W52 (36/40/44/48ch) / W53 (52/56/60/64ch) / W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch)
	IEEE 802.11ac準拠	W52 (36/40/44/48ch) / W53 (52/56/60/64ch) / W56 (100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch)

注1：Wi-Fi®準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注2：・IEEE 802.11nではHT20/40に対応しています。HT40を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。

・IEEE 802.11nを使用する際の無線LANアクセスポイントの設定で、HT40の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにHT40の機能を無効にしてください。

注3：・IEEE 802.11acではVHT20/40/80/160に対応しています。VHT80/160を利用するには、無線LANアクセスポイントもVHT80/160に対応している必要があります。

・IEEE 802.11acを使用するときの無線LANアクセスポイントの設定で、VHT40/80/160の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにVHT40/80/160の機能を無効にしてください。

注4：IEEE 802.11n、IEEE 802.11ac、IEEE 802.11axで接続するためには、パスフレーズ (PSK) をAESに設定する必要があります。

注5：WEPによる暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長24ビットを引いた40ビット/104ビットです。

注6：このパソコンに搭載されている無線LANのIEEE 802.11bでは、無線チャンネルとしてチャンネル1～13を使用しています。無線LANアクセスポイントのチャンネルを、1～13の間で設定してください。設定方法については、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。



□ 5GHz帯のチャンネルについて

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n/ac

**J52** W52 W53 W56

IEEE 802.11a/b/g/n/ac準拠の無線LANを搭載した機種では、5GHzの周波数帯において、次のチャンネルを使用できます。

- W52 : 36 (5,180MHz) /40 (5,200MHz) /44 (5,220MHz) /48 (5,240MHz)
- W53 : 52 (5,260MHz) /56 (5,280MHz) /60 (5,300MHz) /64 (5,320MHz)
- W56 : 100 (5,500MHz) /104 (5,520MHz) /108 (5,540MHz) /112 (5,560MHz) /  
116 (5,580MHz) /120 (5,600MHz) /124 (5,620MHz) /128 (5,640MHz) /  
132 (5,660MHz) /136 (5,680MHz) /140 (5,700MHz) /144 (5,720MHz)

5GHz帯を使用する場合は、上記チャンネルを利用できる無線LAN製品とのみ通信が可能です。

---

ESPRIMO  
Q558/G

製品ガイド（機種別編）  
B6FK-5981-01 Z0-00

発行日 2021年6月  
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

---

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。